

7.15 summer 2022

〒810-0001福岡市中央区天神5丁目2-1

公益社団法人 福岡県美術協会(福岡県立美術館内)

tel:092-713-4200 fax:092-791-1472

E-mail: fasartseven@wing.ocn.ne.jp

https://fukuoka-ken-art-society.com/

この春、英彦山(ひこさん)神宮鬼杉不動を完成された知足院美加子さん。修験道復興の一環として神宮より制作を依頼されたとのこと。その作品について伺った。

作品探訪

「英彦山神宮

鬼杉不動の制作」

—英彦山の信仰と自然を形に—

知足院 美加子(彫刻部会委員)



鬼杉不動(2022年)

津田: 英彦山修験道に於ける自然信仰と森林文化の再興を志されたとありますが。
知足院: 修験道の信仰の中心は「自然」「人畜草木森羅万象(じんちくそうもくしんらばんしょう)」のひとつひとつが平等に尊い神仏の教えに満ちていると信じます。人は地獄のような辛苦にあっても、山から新しい命を授かり何度でも生まれ変わることができると考えました。「杉」は長く生き、挿木(さしき)、折れた枝に根がつき生き返るため、擬死再生(ぎじせいせい)の象徴となりました。

《鬼杉不動》に手を合わせることは、英彦山の霊木に宿る物語(歴史)に人々が思いを馳せ、祈ることになるのだと思います。

津田: 制作にあたってご苦労なされたことなどおありでしょうか。

知足院: 鬼杉は過酷な環境で生き抜き、驚くほど硬く複雑な木目(もくめ)がありました。修験道は全ての命を救済しようとする不動明王を大切にします。不動明王は右目が上、左目が下を向き、天と地を調和させる「天地和眼(てんちわがん)をもちついで、んちわがん)を持っています。その瞳や衣の有様が、独特の木目に合致したときは、こうなると最初から決まっていたかのように感じました。英彦山神宮の下津宮(しもつぐ)に奉納する際、山伏や地域の方々が御輿(ごよ)のように長い階段を上りました。こうして共に力をあわせること自体が尊いことでした。



知足院: 英彦山は、日本の三大修験山のひとつですが、明治期の修験道禁止令等によって多くの仏像が破壊されました。私は、修験者(知足院)の子孫として、先祖たちの苦難を伝え聞いていました。

《鬼杉不動》は、英彦山の樹齢1200年の霊木「鬼杉」から台風によって折れ落ちた巨大な枝で制作されています。また、火焰(かえん)光背(こうはい)は、山伏達が植林した「千本杉」の倒木を山中で製材したものです。



樹齢1200年の鬼杉



知足院 美加子
(とみたり みかこ)

●九州大学芸術工学研究院 教授 博士(芸術学)
●筑波大学大学院芸術研究科彫塑コース修了 ●青年海外協力隊美術隊員、コストリカ共和国派遣 ●国画会彫刻部会員 ●日本山岳修験学会評議員 ●英彦山山伏「知足院」の子孫 ●自然とアートをテーマに復興支援活動等を行う
●復興支援: 2004年 中越地震、2011年 東日本大震災、2016年 熊本震災、2017年 九州北部豪雨災害

(インタビュー: 文津田三朗)

津田: 鬼杉不動は彫刻作品に留まらず、自然からの賜り物として、信仰の対象や象徴として後世に引き継がれることになるのですね。
知足院: この度の制作を通して、自然の循環や多様性を護持してきた修験道の価値観が明らかに、将来世代に新たな自然への眼差しが宿ることを祈っています。